

2014年3月10日 全4頁

貿易収支赤字の要因①～原発停止で4兆円赤字拡大

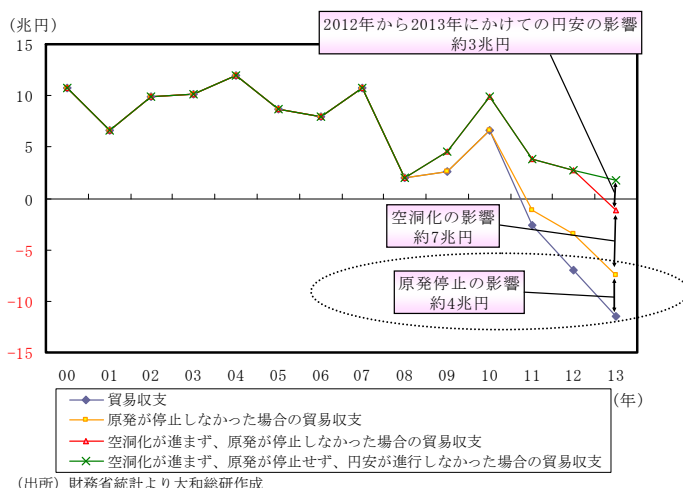
原発停止は2013年のエネルギー輸入金額を4兆円程度押し上げ

経済調査部
エコノミスト 齋藤 勉

[要約]

- 2013年の貿易収支は11.5兆円の赤字となり、比較可能な中で過去最大の赤字幅を記録した。本レポートは、その要因を分析するレポートの第1弾である。
- 原発が停止してから、火力発電への依存度は急速に高まり、液化天然ガス（LNG）の輸入量が急増した。さらに、LNG調達の急増は、スポット取引の増加を通じてLNG価格を上昇させることになった。仮に原発が停止していなければ、鉱物性燃料輸入量は10%程度少なく、LNG輸入価格は20～30%程度低かった可能性がある。結果として、原発が停止していなければ、輸入金額は4兆円程度少なかったと考えられる。これは裏を返せば、原発が再稼働しても、貿易収支赤字幅は4兆円程度しか縮小しないということの意味する。
- 貿易収支赤字幅の拡大には空洞化の影響が大きく、円安によるJカーブ効果の発現に時間がかかっていることも影響している（空洞化、円安が貿易収支に与える影響については、貿易収支赤字の要因②、③で分析しているため、そちらも合わせてご参照いただきたい）。しかし、原発停止、空洞化、円安の影響をすべて取り除けば、2013年の貿易収支は2兆円程度の黒字になっていた可能性がある。すなわち、貿易収支が赤字のまま推移するか、それとも黒字に復していくかは、今後の日本経済の動向次第なのである。

原発停止、空洞化、円安が2013年の貿易収支に与えた影響



原発停止が貿易収支に与える影響

2013年の貿易収支は11.5兆円の赤字となり、比較可能な中で過去最大の赤字幅を記録した。近年の輸出入動向を見ると、鉱物性燃料の輸入金額の増加が輸入金額全体の拡大を主導しており、貿易収支赤字幅拡大の大きな要因となっている。2011年以降原油を中心とする鉱物性燃料の価格は上昇しており、円安による輸入価格の押し上げも相俟って、鉱物性燃料輸入金額の増加傾向が続いている。しかし、鉱物性燃料輸入金額が増加している背景には、原子力発電所（以下原発）の稼働が停止した影響も大きい。

そこで、本レポートでは原発停止がエネルギー輸入にどのような影響を与えているのか、その帰結として、輸入金額をどの程度押し上げているのかを検証する。結論から言えば、原発停止による貿易収支赤字幅の拡大額は4兆円程度と試算される。すなわち、原発の再稼働だけでは、貿易収支の黒字化は困難なのである。

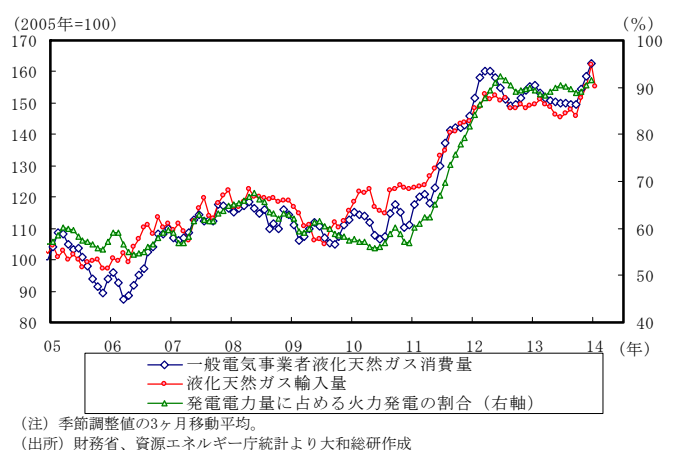
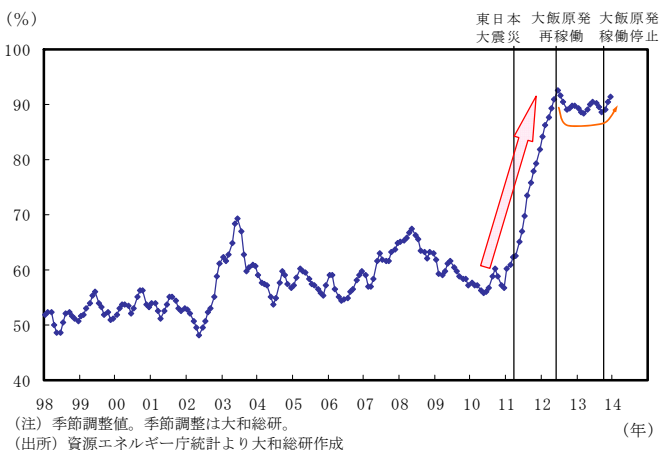
原発停止以降火力発電への依存度が高まる

2011年3月の東日本大震災以降、日本国内の原発は相次いで稼働を停止した。2014年3月現在、17基の原子炉の再稼働が申請されているものの、原子力規制委員会による審査は進んでいない。また、審査が急速に進展し、原発の再稼働がいつ頃から始まるかを見通せる状態にもない。

こうした状況の中、日本国内の電力供給は、急速に火力発電への依存度を増していくことになった。**図表1**は、発電電力量に占める火力発電の割合を示したものである。東日本大震災発生後、急速に火力発電への依存度が高まっていることがわかるだろう。2012年7月に大飯原発が一時的に再稼働した際には、若干火力発電への依存度が低下した。しかし、2013年9月に大飯原発が再度稼働停止すると、火力発電への依存度も再度上昇してしまった。

火力発電への依存度が高まることで、発電に必要な燃料の輸入も急激に増加した。**図表2**は、火力発電への依存度と、電力会社の液化天然ガス（LNG）消費量、さらに液化天然ガスの輸入量の推移を示したものである。火力発電への依存度が高まると同時に、液化天然ガスの使用量が増加し、輸入の増加に繋がっている様子が見て取れる。

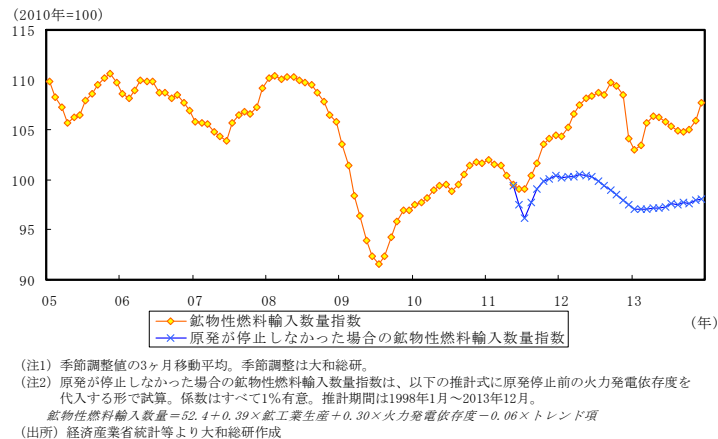
図表 1: 一般電気事業者発電電力量に占める火力発電の割合 図表 2: 火力発電への依存度と液化天然ガス消費量



仮に原発が停止しなかった場合の鉱物性燃料輸入数量

では、もし仮に原発が停止していなかった場合、鉱物性燃料の輸入金額はどの程度少なかったのだろうか。**図表 3** は、鉱物性燃料輸入数量指数を、鉱工業生産指数と火力発電依存度を用いて推計したものである。原発停止が無ければ、火力発電依存度が上昇することもなかったはずである。このとき、**図表 3** の試算からは、エネルギー輸入数量が 10%程度少ない水準で推移した可能性が示唆される。

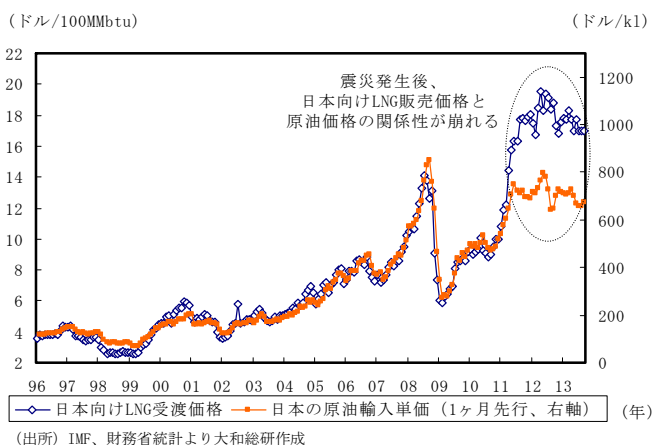
図表 3：原発が停止しなかった場合の鉱物性燃料輸入数量



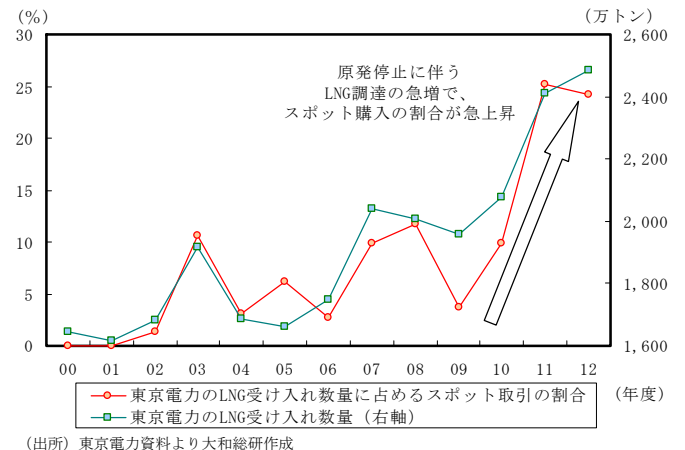
原発停止が LNG 輸入価格に与えた影響

原発停止がエネルギー輸入に与えた影響は、輸入数量の増加に留まらない。**図表 4** は、日本向け LNG 受渡価格と、日本の原油輸入単価を比較したものである。東日本大震災発生直後から、LNG 価格と原油価格の関係性が大きく崩れたことが見て取れるだろう。LNG 消費量が急激に増加したため、長期契約で手当てしている調達量では LNG が不足してしまい、電力会社はスポット契約での調達を増加せざるを得なくなった(**図表 5**)。長期契約では、原油価格に連動する形で LNG 価格が決定されることが多いが、スポット契約では需給を反映する形で価格が変動しやすい。急増した日本の電力会社からの需要に対応する形で、スポット契約での LNG 調達価格が上昇したのである。

図表 4：日本向け LNG 価格と原油輸入単価



図表 5：東京電力の LNG 受け入れ数量とスポット取引割合



原発停止は輸入金額を 4 兆円押し上げ

スポット取引が増加した結果 LNG 輸入価格が上昇したとすれば、仮に原発が停止していなかった場合、LNG 輸入価格も上昇しなかったと考えて良いだろう。このように考えれば、原発が停止しなかった場合、LNG の調達単価は足下の水準と比べて 20%~30%程度低かったと想定できる。また、既述の通り、原発が停止しなかった場合、鉱物性燃料全体の輸入数量は足下の水準よりも 10%程度少なかったと考えられる。以上の試算を合計すると、原発停止によって、2013 年の輸入金額は 4 兆円程度押し上げられていたと考えることが出来る。

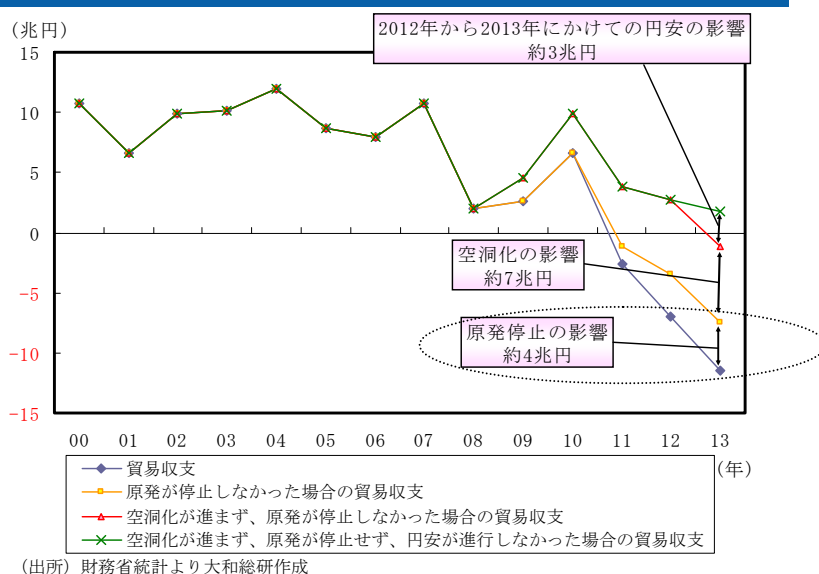
原発再稼働だけでは貿易収支黒字化は見通せない

これは、裏を返せば、原発が再稼働しても、貿易収支赤字幅は 4 兆円程度しか縮小しないということを意味する。2013 年の貿易収支は 11.5 兆円の赤字であり、原発の再稼働だけでは貿易収支黒字化は見通せない。

貿易収支赤字幅の拡大には、原発停止による影響よりも空洞化の影響が大きい。さらに、円安による Jカーブ効果の発現に時間がかかっていることも寄与している(図表 6)。原発の再稼働には時間を要すると考えられること、空洞化の影響を短期間で縮減することは困難であると考えられることから、貿易収支の黒字化は当面見通せる状況にない。

ただし、原発停止、空洞化、円安の影響をすべて取り除けば、2013 年の貿易収支は 2 兆円程度の黒字になっていたとも試算できる。すなわち、貿易収支が赤字のまま推移するか、それとも黒字に復していくかは、今後の日本経済の動向次第なのである¹。なかでも、貿易収支に影響を与えるのは、エネルギー需給や空洞化の動向、為替レートの動きといった、経済の根幹に関わる部分である。日本経済の現況を映す鏡として、今後も、貿易収支の動向には注視が必要であろう。

図表 6：原発停止、空洞化、円安が 2013 年の貿易収支に与えた影響



¹本レポートに続く「貿易収支赤字の要因②」、「貿易収支赤字の要因③」では、空洞化の影響、円安の影響をそれぞれ検討している。こちらもぜひご参照いただきたい。